

human

No.239

2012/3

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「新春太鼓 太郎と花子にて」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッヅ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッヅ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッヅ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

「わが闘争―マヒと戦い―」【第二】

大森 澄雄

文学部に入って、私はよかったです。作品から読み取れる作者の生き方と自らの生き方とを相対

峙させながら読んでいくうちに、論文のテーマは見つけることが出来る、何とかなるというのが、大学生として卒業論文に取り組んでいた当時の私の気持ちだった。私は特に、日本固有の私小説に関心を持っていて、それから四五年経ち、高等学校の教師をしていた三十代少し前の私は、もうワン・ランク上の職業に就きたいと考えるようになっていた。そんな時に緑内障になったことは、大きな痛手であった。しかし、三年で正常に

戻ったことで、私は運がっているかと前向きに考えることにした。

もちろん私は、ここで人生論や文学論を論ずるつもりはない。目的は、冒頭の近くで（脳梗塞の）「病状とそれに対する戦いの実状とを報告すること」、本稿の紙幅の多くを割きたい」と書いたとおりである。その後には「リハビリテーションの仕方」は「人それぞれに少しずつ異なる」が、「人それぞれの生き方に分岐点があるようだ」と記した。そして私は、一般の人とは雲泥の差のある、これまでの病歴を披露し、それが私の生き方の形成に大いに関係して

いることを、愚直に記してきたのである。

そこで早速、約束した本題に入ることにしたい。一回目の脳梗塞は昭和六十年五月五十三歳の時に、二回目は平成二十年六月七十六歳の時に発病した。マヒは、前者が左半身に、後者が右半身に出た。二回とも人事不省に陥ることも、シビレの出ることもなかった。前者の場合には、リハビリに最も有効な期間の何日間かを失うことになり、後者の場合には、生涯残ることになる。特に手の指を動かすのに最も有効な期間は、発病後二か月間である。入院して二週間が、病院

では一般に安静期間に当てられている。一回目の場合には、入院後三日間は悪い方向にどんどんと進んで行った。四日目の朝には、どうにか止まっていた。もっともそれは、細心の注意を払っていたが、とにかく私の受けた感じに過ぎない。

丁度三日目の朝、食事を運んで来た看護婦さんから「今日の院長先生の回診は二時になります」と告げられた。「回診」ということばがわからなかった。家内に尋ねたところ、ポロツと涙を落として教えてくれた。社会復帰は適わぬと思ったそうである。よく気を付けていると、家内のことばの中にもわからないことばがあった。もちろん、その日の院長さんの回診の時に、無意

識のうちには私は「社会復帰の見込みはありませんか」と尋ねていた。院長さんは「何ともいえません」と応え、「深刻に考えることはよくないことです」と諭された。しかし、心配でたまらなかつた。

が、四日目の病床でのマッサージの後で、左手の、中の関節の辺りを小さな虫が這っているような気がした。幻覚かも知れないと思つたが、いい方の右手で動かしてみると、かすかに動いた。左手は中の関節から先がマヒしていたのである。この些細な変化が、私の気持ちをいくらか明るくした。三日間、中の関節のリハビリを集中的に行なつて、四日目に手の関節を動かしてみた。動いた。やはり三日間、手の関節を動かすことに熱中した。それから、親指、人差し指、中指、薬指、

小指というふうには、順番に動かして行つた。小指を動かすことには、些か骨が折れた。中でも、薬指と小指を別々に動かすことには、極めて骨が折れた。半ば諦めかけていたところに、口の周辺のマヒが酷くなつて、口を開くことに気が付いた。口の周辺のマヒは五十音を正確にいえるようにすることだと思ひ、口を大きく開けて、大きな声を出して発声練習に励んだ。私の借りていた病室は、風呂付き便所付きの、当時一日一萬円の個室だつた。声を出すには、大変都合のいい場所だつた。五十音の発声練習を指の屈伸運動と連携させて、屈伸の回数を数で数えるのではなく、五十音で数えることを考へた。日本語は五十音が構成されている。五十音が正確に発声出来るようになるれば、相手に

私のことばは正確に伝わるはずである。そして遂に、天井にカタカナの五十音図が印刷されているような幻覚状態に陥つた。練習を始めると一か月経つたころ、やっと私の生のことばは正確に伝わるようになった。丁度そのころ、私の指も一本々々切り離して動かすことが出来るようになっていた。デンワの音が正確に聞き取れるようになるには、もう少し時間を必要とした。翌年の一月に勤務先である東京の同僚にデンワを掛けるまで日数がかつたのである。入院中ももちろん、病院から家にデンワを掛けて、家族に矯正してもらつていた。

入院八日目から私の気持ちは、大変明るくなった。前の晩のシイテイ・スキャンでの撮影の結果頭の中の状態が安定したことを、

主治医のY先生から知らされたからである。入院三日目の、さきに記した看護婦さんのことばの中でわからなかつた「回診」ということばが、ずうつと頭に引つ掛かつていた。家内に、岩波文庫、新潮文庫、角川文庫の中の薄っぺらな小説集を何冊か早急に家から持って来るように頼んだ。しかし、「まだ早いんじゃない」といつても動かなかつた。「それなら、今いったことを先生に伝えてくれ」といつたところ、「読む意志があれば、一刻も早く読ませて下さい」という指示を受けて帰つて来て、早速取り寄せてくれた。忘れたことばが何日取り戻せたかは、今となつては正確な記憶はない。しかし、可成り早くに取り戻せたような記憶が残っている。

「第2回市民公開講座」を終えて…

2月11日(土曜日)に健康文化プラザ・ほほえみホールで開催しました「第2回市民公開講座」では多くの方にご参加を頂きありがとうございました。無事開催ができ、盛況のうちに終わることができました。今後も地域の皆様に「総合病院ができること」として、いろいろと役立つ医療の情報をお知らせしていきたいと思っております。

次回、3回目の市民公開講座は日時や場所が決まり次第、お知らせ致しますので、お楽しみに!!



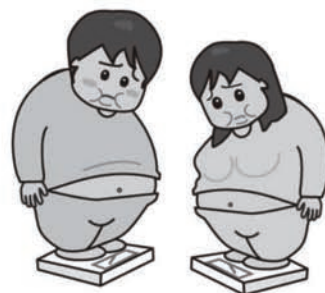
第13回 「健康を守る教室」

テーマ：『メタボリック対策』してみませんか？
& セラバンドを使用した体操

日時：平成24年3月24日 土曜日
13:00~14:00 (受付12:30~)

場所：新館1F
講師：管理栄養士 馬場
理学療法士 磯村

参加料：無料
お問い合わせ：受付窓口もしくは医療連携室
Tel 0587-95-0015



よく話題になる『メタボリックシンドローム』…ご存知な方も多いと思いますが、みなさん対策はされていますか？

メタボリックは生活習慣病です。今回の健康教室はメタボリックの予防などについてお話しをします。これを機に日常生活を見直してみませんか！

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。
ご希望の方はお申し出下さい。 黄色(弱)400円 緑色(中)460円 青色(強)520円

ごあいさつ

歯科口腔外科 臨床研修医 藤井 政也

さくら総合病院で働き始めてもうすぐ1年が経過しようとしています。私は、昨年4月より当院歯科口腔外科の臨床研修医として勤務させていただいています。

大学生生活6年間を過ごし慣れ親しんだ九州の地を離れ、少しでも地元の近くで働きたいという思いから、愛知県や岐阜県内で卒後研修先を探していたのがもう1年以上も前のこととなります。いくつか候補の病院や歯科医院を探して研修内容について調べていたとき、とても魅力的に感じた研修施設を見つけました。さくら総合病院歯科口腔外科です。

当時、人生のうちでたった1年しかない研修期間をどのように過ごすかで非常に悩んでいました。地元に近い大学病院で新たな仲間を見つけて共に頑張っていくか、または先の就職先まで見据えて研修を行うか、あるいは仲間とともにもう1年母校の大学病院で研修を行いその後の就職で地元に戻るかなど様々な選択肢があったのです。研修施設にも大学病院や総合病院、または一般開業の歯科医院といろいろな種類がありました。その中から私はさくら総合病院歯科口腔外科での研修を選択しました。研修を決定した理由は大きく2つあります。1つは、医科との医療連携によって全身疾患を患った患者さんの歯科治療を多く経験できるという点、もう1つは事故による顔面外傷など、救急歯科医療が経験できるという点です。特に救急歯科医療はさくら総合病院でしか経験できないくらい貴重な体験で、この1年間で様々な外傷の症例を経験することができました。また、口腔領域の癌やその他の腫瘍など一般の開業医では一生涯出会わないような症例がとて多く、口腔外科という一般歯科とはまた違う面を持つ診療を経験し学ぶことができました。さくら総合病院で過ごした1年間の研修期間は私のこれからの歯科医師人生の中でも大きな財産になることは間違いありません。

来年度からは臨床研修医ではなく、1人の歯科医師として働き始めることとなります。まだまだ一人前の歯科医師には程遠いですが、この研修期間で学んだ臨床現場での技術、学問的な知識、何より歯科医師としての心構えを胸にこれからも頑張っていこうと思います。

採血の疑問

臨床検査部



日々患者さんの採血をしていると短い時間ながらも色々なお話をすることがあります。その内容は天気の話から検査項目についてまで様々ですが、中でも採血に関する疑問が話題にあがる事は少なくありません。今回は採血に関するご質問について簡単ではありますが話をさせていただきます。

まず良く耳にするのが「私の血はこんなに黒くて大丈夫ですか?」というご質問です。皆さんが想像されているような真っ赤な血液は「動脈」という血管を流れる血液で、肺で受け取った酸素を体中に届ける働きをしています。一方、私たちが採血をしている血管は「静脈」と言い、体中に酸素を届け終わり肺へ戻る血液が流れています。血液は酸素を運んでいる間は真っ赤な色をしています。酸素を手放すと暗い赤色に変わります。その為、普段採血をしている「静脈」の血液は皆さん同じように暗い赤色=黒い血をしていますので全く心配ありません。また、「ドロドロしていますか?」というご質問もよく頂きますが、見た目のみで容易に判断はできません。メディアなどで一般的に「ドロドロ」と表現される血液には、コレステロールや中性脂肪といった脂質が通常より多く含まれていますが、これは実際に検査をしてみないとわかりません。それから「こんなに沢山採るのですか?」というお声も良く耳にします。血液検査の内容は患者さんによって異なる為一概には言えませんが、多くの方が15mL(cc)未満の採取量で十分に検査を行なう事ができます。15mLと言われてもピンと来ないという方は「大さじスプーン1杯」と考えてみてはどうでしょうか?意外に少ないと思われた方が多いのではないのでしょうか。採血による貧血を心配される方もいらっしゃると思いますが、15mLの採血によって貧血を起こす事はありませんのでご安心下さい。但し、採血が苦手で気分が悪くなってしまう方もいらっしゃると思いますので過去に経験のある方や不安な方は採血前に遠慮なくご相談頂ければと思います。血液は体の状態を表す貴重な情報源であり、採血は病気の診断や病状を把握する上でとても重要な検査です。痛みを伴う検査ですが、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

診療科表

平成24年3月1日現在

	午 前 9:00～12:00										午 後 5:00～7:30											
	消化器病 外傷 センター	循環器 呼吸器 総合内科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊椎 骨髄 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	子ども女性疾患 センター	ペイン クリニック センター	皮膚疾患 センター	耳・鼻・ 喉疾患 センター	腎尿路 疾患 センター	眼の 疾患 センター	消化器病 外傷 センター	循環器 呼吸器 総合内科 センター	運動器 形成 センター	脳卒中 脊椎 骨髄 センター	神経 糖尿病 感染症 センター	子ども女性疾患 センター	ペイン クリニック センター	皮膚疾患 センター	耳・鼻・ 喉疾患 センター	腎尿路 疾患 センター	眼の 疾患 センター
月	○	○	○	○	○	○ 受付 11:45迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○ ※2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 18:30～ 19:30	○ 18:30～ 19:30	○	○ 受付 17:30～ 19:30	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○ 9:00～ 11:45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 受付 19:00迄 19:30	○	○	○	○
木	○	○	○	○ ※2	○	○ 受付 11:30迄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 18:00～ 19:30	○ 18:30～ 19:30	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 18:00～ 19:30	○ 18:00～ 19:30	○	○ 受付 17:30～ 19:30	○	○	○	○
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日	○	○	○ ※1																			

- ※1 休診日もございます ※2 祝日の診療もございます(9:00～11:00)
- 診療時間に関しては、受診されます診療科目により異なります
- ご不明な点がございましたら、職員に確認してください
- 診療日が変更になる場合があります ご了承ください

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
 human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2012年3月1日
 No.239 丹羽郡太口町新宮1-129 発行部数 350部